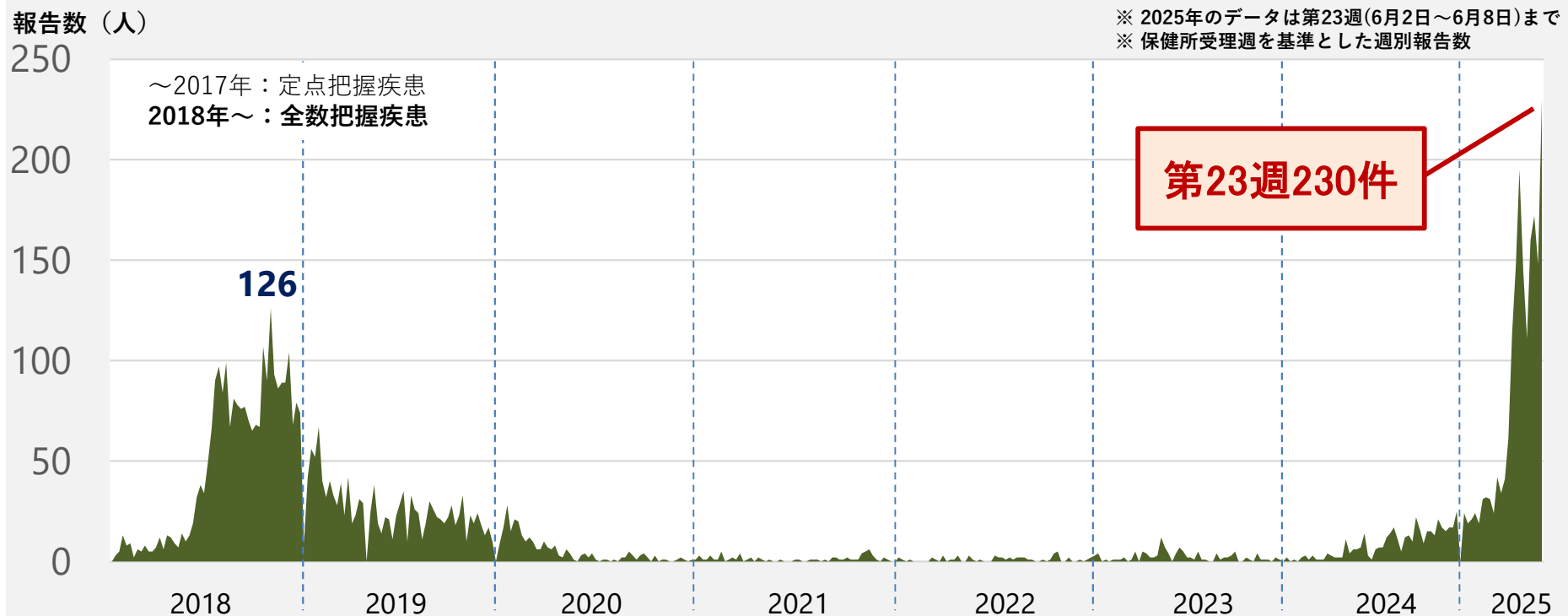


百日咳とは

- 病原体は百日咳菌 (*Bordetella pertussis*)
- 症状としては、特徴的な咳(発作性・連続性の咳など)や症状(無呼吸発作など)を呈する、あるいは長引く咳が見られる
- 乳児で重症化しやすく、肺炎、脳症を合併し、まれに致死적
- 2025年第23週の患者報告数は、全数把握疾患となった2018年以降で最多
- 2025年第15週以降は9週連続で週当たり100件を超える報告数となっている

都における週別患者報告数の推移 (2018年第1週から2025年第23週まで)



百日咳への対応

都民への呼びかけ

- ひとくち感染症情報の更新
- 都のホームページ
- SNS（X（旧Twitter）、LINE）
- 赤ちゃんファーストメールマガジン等

◆ 乳児で重症化しやすいので
生後2か月に達したら
早めにワクチン接種の検討を

◆ 特に乳児がいるご家庭では
咳エチケットや手洗いなど
基本的な感染対策を

ひとくち

感染症情報

東京都健康安全研究センター
2025年3月21日

百日咳が流行しています！！



どんな病気？

百日咳は、百日咳菌による感染症です。一年を通じて発生がみられます。乳児の場合、無呼吸発作など重篤になることがあり、生後6か月未満では死に至る危険の高い病気です。症状が出たら早めに受診しましょう。成人では、比較的軽い症状で経過することが多く、受診・診断が遅れ感染源になることがあります。乳児の周りでは特に注意が必要です。

どうやって感染するの？症状は？

主に、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌によって感染します（飛まつ感染）。7～10日程度の潜伏期間を経て、風邪症状がみられ、徐々に咳が強くなっていきます（カタル期：約2週間）。その後、短い咳が連続的に起こり、咳の最後に大きく息を吸い込み、痰を出しておさまるという症状を繰り返します（痙攣期：約2～3週間）。激しい咳は徐々におさまりますが、時折、発作性の咳がみられます（回復期：2～3週間）。

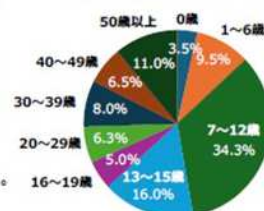
どれくらい多いの？

都内の2023年の報告数は116件でしたが、2024年は400件と3倍以上に増加しています。

年代別では15歳までの報告が6割以上ですが、成人でも報告されています。また、接種後時間が経つと、百日咳に対する効果が低下することが知られており、百日咳含有ワクチン4回接種者の報告数は194人と半数近くになっています。

2025年11週時点で既に267件と増加傾向が続いています。

2024年 年代別報告割合 n=400



予防や治療法は？

有効な予防法は予防接種で、予防接種法に基づく定期予防接種が行われています。2か月に達したら、早めに5種混合ワクチン¹⁾を接種しましょう。

また、定期予防接種により百日咳の免疫を得ていても、小学校就学前にワクチン効果が薄まるため、日本小児科学会では任意での3種混合ワクチンの2回追加接種を推奨しています²⁾。

① 学校就学前の1年間、② 11～12歳

予防接種による免疫効果の持続は5～10年程度ですが、ワクチン接種により、百日咳にかかるリスクを80～85%程度減らすことが出来ると報告されています。

治療は、主にマクロライド系の抗菌薬で行います。

1) 2024年4月1日より4種（ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ）混合ワクチンにHibワクチンを含んだ、5種混合ワクチンが導入されました。

2) 百日咳ワクチン接種推奨ポスター（日本小児科学会） https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20191002_hyakunichizeki.pdf

百日咳への対応

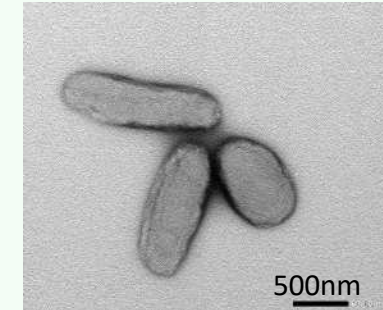
都の対応

○ 感染症等の専門家から意見を聴取

【主な意見】

- ・ 小児の感染者数が増加しており、早期乳児は兄弟姉妹などからの**家庭内感染**が多い
- ・ 日本でも**マクロライド耐性の百日咳菌**による患者が報告されている
- ・ 関係学会から**定期接種外ワクチン**についての提言がなされている

マクロライド耐性百日咳菌
透過型電子顕微鏡像



(東京都健康安全研究センター)

○ 専門家の意見を踏まえ、「東京都感染症マニュアル2018」の百日咳のページを更新 ⇒ ホームページに掲載(6月11日)、医療機関向けに提供(6月12日)

項目	追記・修正内容
感染経路	○早期乳児の感染源の多くが、兄弟姉妹などからの家庭内感染であることを強調
臨床的特徴	○特徴的な咳を見逃さず、早期探知・早期治療につなげることを強調
病原体	○日本でも複数の地域からマクロライド耐性の百日咳菌による患者が報告されていることについて追記
ワクチン	○日本小児科学会の推奨について情報提供 ・生後2カ月になったら速やかに定期接種の5種混合ワクチンを接種すること ・就学前に3種混合ワクチンを追加接種すること、11-12歳の定期接種である2種混合ワクチンに代えて3種混合ワクチンを接種すること ○日本産科婦人科学会の推奨について情報提供 ・希望する妊婦には百日咳を含む3種混合ワクチンの接種を考慮すること
治療方針	・マクロライド耐性の百日咳菌に対する抗生剤の処方例について情報提供